

令和元年第4回八千代町議会定例会会議録（第3号）

令和元年12月18日（水曜日）午前9時02分開議

本日の出席議員

議長（8番）	中山 勝三君	副議長（6番）	廣瀬 賢一君
1番	関 眞幸君	2番	野村 勇君
3番	安田 忠司君	4番	増田 光利君
5番	大里 岳史君	7番	上野 政男君
9番	生井 和巳君	10番	大久保 武君
11番	水垣 正弘君	12番	小島 由久君
13番	宮本 直志君	14番	大久保敏夫君

本日の欠席議員

なし

説明のため出席をしたる者

町 長	谷中 聰君	副 町 長	古宇田信一君
教 育 長	赤松 治君	会 計 管 理 者	塚原 渥君
秘 書 公 室 長	青木 喜栄君	総 務 部 長	生井 俊一君
企画財政部長	中村 弘君	保健福祉部長	塚原 勝美君
産業建設部長 兼 都 市 建 設 課 長	木村 和則君	総 務 課 長	生井 好雄君
税 務 課 長	鈴木 衛君	まちづくり 推 進 課 長	馬場 俊明君
財 務 課 長	大里 斉君	福 祉 課 長	川村 俊之君
長寿支援課長	宮田 圭子君	産業振興課長	飯岡 勝利君
農業委員会 事 務 局 長	宮本 正美君	教育次長兼 学校教育課長	青木 和男君
総務課補佐	中川 貴志君	財 務 課 補 佐	倉持 浩幸君

議会事務局の出席者

議会事務局長 秋葉 松男
係 長 山中 昌之

主査兼係長 鈴木 佳奈

議長（中山勝三君） 引き続きご参集をくださいまして、まことにありがとうございます。
す。

ただいまの出席議員数は14名であります。よって、定足数に達しておりますので、
これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

（議長が了承を求めた議事日程は次のとおり）

議 事 日 程 （第3号）

令和元年12月18日（水）午前9時開議

日程第1 通告による一般質問

議長（中山勝三君） 傍聴人の方に申し上げます。

地方自治法第130条第1項並びに八千代町議会傍聴規則第11条の規定により、会議を妨
害する行為があった場合には退場を命ずることがありますので、あらかじめご注意申し
上げます。

また、八千代町議会傍聴規則第9条の規定により、傍聴席における写真、動画等の撮
影及び録音等につきましては禁止されておりますので、ご注意申し上げます。

なお、携帯電話をお持ちの方は、電源をお切りくださいますようお願い申し上げます。

また、本日の会議におきまして、町広報係による写真撮影を許可いたしましたので、
ご了承願います。

日程第1 一般質問

議長（中山勝三君） 日程第1、通告による一般質問を行います。

順序に従いまして質問を許します。

初めに、12番、小島由久議員の質問を許します。

12番、小島由久議員。

(12番 小島由久君登壇)

12番(小島由久君) ただいま議長の許可をいただきましたので、通告してある項目について一般質問をいたします。

1点目として、町長の健康について質問いたします。町長が町長選挙に立候補するといううわさが流れたころ、町民の方々から、谷中さんの体は余りよくないということだが、大丈夫なのかという声が聞かれましたので、私は3月の議会の一般質問で町長の体は大丈夫なのかと質問いたしましたところ、町長は体は健康であるから大丈夫ですと答弁をしています。町長は、9月13日の議会終了、議会打ち上げの席を欠席されましたが、どういう理由で欠席されたのか、詳しい話はありませんでした。町民の方々からは、「町長の姿が見えないが、どうかしているのか」と聞かれましたが、私ははっきりしたことはわかりませんでしたので、「よくわからない」と答えますと、「議員が知らないのはおかしい」と言われました。そのうちに、町長が入院しているといううわさが流れました。10月2日に中結城地区老人会による芸能の集いが憩遊館で開催された席に副町長が町長の代理として出席されましたので、町長が入院しているということは本当なのかと聞いたところ、しどろもどろの話である。入院しているのなら入院していると議員に報告、知らせるべきではないのかと話をしたところ、2日後に議会事務局長から10月いっぱい休ませていただきたいという連絡がありました。10月いっぱい休ませていただきたいということは、1カ月半、45日間休むということである。その間、副町長が町長の代理として公務を務めておりますが、町長が11月1日より公務に復帰しましたが、11月25日に再度検査入院したということは、体調が余りよくないのではないかと。町長、あなたの体はあなた一人の体ではない。八千代町町民の代表の体でもある。だから、健康で公務に務めていただきたい。私初め町民の皆さんも、町長、あなたの体を心配しているのである。

そこで、町長に質問いたします。町長の身体は本当に大丈夫なのか。今後、入院するようなことはないのか。もしも入院するようなことがあれば、公務に影響が出るのではないかと。町長の明確な答弁を求めます。

また、町民の方から、町長は何ていう病気で入院したのかと聞かれますが、私もよくわからない。執行部に聞いてもわからないと言う。町長本人に聞いていただきたいと答えていることを町長に報告しておきます。

2点目として、八千代工業団地西側に企業進出について質問いたします。道路の東側

にはモスニック株式会社が9月から操業開始し、国産機械は10月に地鎮祭を行い、来年の夏ごろには操業開始するというところでありますが、道路の西側には企業の進出ははままだに決まっていない。私は、今回の八千代町議会議員選挙に公約として、日野自動車関連企業を取り入れた新しい行政改革、基幹産業である農業、中小企業や商工業の活性化、明るい住みよいまちづくりを目指しますと訴えてきました。企業進出は、八千代町にとって重要課題である。なぜなら、企業進出により町内で働く場所ができれば、雇用の確保、人口の増加、税収の確保につながるのである。そのためには、町長、副町長みずから県にお願い、トップセールスをしなければ前に進まないのではないのか。一日でも早く企業進出に向けて八千代町のために努力をしていただきたいと思います。町長の答弁を求めます。

2つ目として、副町長に質問いたします。副町長には前の議会の一般質問で、元県の職員であり、先輩、後輩と連携をとって、企業進出、助成金の確保に努めていただきたいとお願いをいたしました。その後どのように進んでいるのか。進捗状況について副町長の答弁を求めて、一般質問を終わります。

議長（中山勝三君） 副町長。

（副町長 古宇田信一君登壇）

副町長（古宇田信一君） 議席番号12番、小島由久議員の通告による一般質問にお答えいたします。

私への質問は、元県の職員であり、先輩、後輩と連携して、企業支出、助成金の確保をということでございますが、八千代工業団地西側の約4.5ヘクタールの企業誘致につきましては、茨城県や県開発公社との連携を密にしながら、企業へのマーケティング調査を行うとともに、各種情報交換などを通じまして進めているところでございます。具体的には、町長とともに、日野自動車株式会社を初め、日野自動車の関連企業との意見交換会や情報交換会を行ってまいりました。また、モスニック株式会社や町内立地企業との情報交換を通じまして、企業誘致活動を推進しているところでございます。さらに、茨城県産業戦略部の企業立地推進チーム、旧企業立地推進東京本部でありますとか、県開発公社の東京事務所などにも県職員時代の同僚などがおりますので、情報交換に出向きまして、八千代工業団地のPR活動を行い、進出企業の掘り起こしを依頼してきたところでございます。今後とも引き続き町長の補佐役としまして、茨城県や県開発公社との連携を図りながら企業誘致活動を推進してまいりますので、議員各位のご理解、ご協

力をお願い申し上げまして、答弁とさせていただきます。

議長（中山勝三君） 町長。

（町長 谷中 聰君登壇）

町長（谷中 聰君） 議席番号12番、小島由久議員の通告による一般質問にお答え申し上げます。

今回の入院に関しましては、議員の皆様大変ご心配をおかけいたしまして、心からおわび申し上げます。おかげさまで体調も良好で、医師からもお墨つきをいただいたところでございます。今後、これまで以上に十分に健康には留意して頑張っていきたいと思っております。

また、ご質問の病名等の公表につきましてでございますが、町民の皆様に対してお騒がせしてしまうようなこともあり、お見舞いなどについても辞退したいとの考えがございましたので、入院先についても公表しない判断をしたものでございます。ご理解をいただきたいと思っております。今後、入院の予定はございません。

今後とも町民の代表である議員の皆様により一層ご指導いただくとともに、八千代町のために精いっぱい努力をしていく所存でございますので、よろしくお願ひしたいと思います。

続きまして、八千代工業団地の西地区の企業進出を早くというご質問でございますが、初めに八千代工業団地東地区の状況についてご報告申し上げます。まず、モスニック株式会社につきましては、9月2日より操業を開始しております。操業時点での従業員数は23人と伺っております。12月現在では28人に体制をアップしまして、今後も順次増員を図っていくということで、令和2年度には40名体制にしていきたいと、そういう意向を示していらっしゃいます。

次に、その南側でございます国産機械株式会社、それにつきましては10月に地鎮祭を行いました。現在、工場建設を進めており、令和2年の夏に新工場が完成し、操業を開始する予定でございます。町といたしましては、新工場が両企業にとってのマザー工場として、今後大きな役割を果たしていくことを期待しているところでございます。

今後、新工場における雇用の確保を図るため、地元企業と近隣高校との就職情報交換会の開催や新規学卒者雇用促進奨励金の活用など、町としてでき得る限りの支援をしてまいりたいと考えております。

また、本町に転入してこられる従業員の方に対しまして、転入者の住まい応援事業、

新婚家庭に対する家賃助成事業や各種の子育て支援などさまざまな支援制度を活用しまして、定住の促進につなげていきたいと考えております。

ご質問の八千代工業団地の西地区への企業進出でございますが、分譲面積は4.5ヘクタールでございます。当工業団地の中で一番大きな敷地面積となります。基本的には、1区画一括分譲で立地していただければと考えているところでございますが、企業側のさまざまな要望に応じて、2区画での分譲など柔軟に対応していきたいと考えておるところでございます。

企業誘致の推進につきましては、町長就任以来、日野自動車株式会社を初め、日野自動車の関連企業でございます国産機械株式会社や株式会社トランテックスとの意見交換、情報交換を行ってまいりました。また、モスニック株式会社や町内立地企業との情報交換を通じまして、企業誘致活動を推進しているところでございます。企業誘致活動につきましては、茨城県、茨城県開発公社と連携を密にしまして進めているところでございます。具体的には、県開発公社と共同で、日野自動車の関連企業や当町からの通勤圏内30キロに立地します企業に対しましてマーケティング調査を行いまして、その結果をもとに企業誘致活動につなげていきたいと考えております。茨城県が主催し、東京と大阪で開催されておりますいばらき産業立地セミナーにおきましても、八千代工業団地のPR活動を行いまして、企業誘致に結びつけたいと考えております。今後も引き続き、茨城県、県開発公社との連携を図りながら、みずからが先頭に立ち、トップセールスによる企業への訪問、積極的なPRを行いまして、魅力ある優良企業の誘致を進めてまいり所存でございますので、議員各位のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

以上、答弁とさせていただきます。

議長（中山勝三君） 再質問ありますか。

12番、小島由久議員。

12番（小島由久君） ただいま議長のご指名がありましたので、再質問させていただきます。

副町長から答弁をいただきましたが、いろいろと模索はしている。しているだけでは八千代町にとって副町長が来た意味がないということは、八千代町に実績を残さなければならぬという自分の立場もわきまえていただき、これからも引き続き前向きに進めていただければと改めてお願いを申し上げます。

また、町長に対して健康についてお聞きしましたが、体につきましては医師からのお

墨つきをいただいているということでありまして、今後の入院はないとはっきり申されました。

それから、企業誘致については、県とトップセールスをして、早目に企業進出を目指して頑張るということですので、ぜひ、ここで答弁したことは町民とも約束したということになりますので、実際に守っていただき、速やかに進めていただきたいということをお願いしまして、再質問を終わります。再々質問はありません。

議長（中山勝三君） 以上で12番、小島由久議員の質問を終わります。

ここで、次の答弁関係課長の入場を許可いたします。

次に、4番、増田光利議員の質問を許します。

4番、増田光利議員。

（4番 増田光利君登壇）

4番（増田光利君） 議長の許可をいただきましたので、通告に従いまして一般質問いたします。

大きくは3点について質問します。初めに、高齢者認知症対策について伺います。2025年には、認知症の人は約730万人に達し、高齢者の5人に1人となる見込みと言われています。政府は今年、新たな認知症施策推進大綱を決定しました。認知症の人が暮らしやすい社会を目指す共生と予防を2本柱の一つとして目標に掲げました。大綱では、予防について、認知症にならないではなく、認知症になるのをおくらせる、認知症になっても進行を緩やかにすると定義しています。そのために、認知症予防トレーニングを初め、食事テスト、ゲームなどさまざまな対策が生まれてきていますが、現在の八千代町の高齢者認知症の現状と対策について伺います。

認知症の症状の一つに徘徊があります。少し前のニュースで、2017年、1人で外出中の91歳（当時）の男性が電車にはねられ死亡した事故で、J R東海が約720万円の損害賠償を家族に求めて提訴。1、2審は、家族に支払いを命じたという裁判が注目を集めました。認知症にお悩みの介護者、家族にとっては衝撃的な報道でした。最終的には、最高裁は家族に責任はないとして、J R東海の請求を棄却しました。しかし、家族が重い責任を負えば認知症の人を家庭内に閉じ込めざるを得なくなり、さらに助長しかねないという懸念の声が広がり、家族にとっては深刻な問題です。

そこで、賠償責任が問われるような万一のトラブルや事故に対し、本人や家族の不安を軽減するため、民間の保険を使った事故救済制度を導入する自治体がふえているとい

います。大半の自治体が保険料全額を公費で肩がわりし、本人負担をゼロにしています。保険料額は、年間1人1,000円から2,000円台が多いそうです。一部補助の自治体もあるといます。対象者の範囲、補償内容は自治体によって異なり、認知症の人の見守り、早期発見のためのSOSネットワークに登録する認知症高齢者に限定して対象とする自治体が多いといます。愛知県豊田市の認知症高齢者等個人賠償責任保険事業は、認知症高齢者等が電車事故などを含め第三者に損害を負わせてしまうなどして損害賠償責任を負った場合に、これを補償する保険に市が加入することにより、認知症の方や家族を支え、住みなれた地域での安心な暮らしの実現を目指すものです。1事故につき補償金額1億円を限度に補償するもので、保険料は全額公費で負担するため、被保険者の自己負担額はありません。大阪府泉佐野市、神奈川県大和市、富山県富山市、兵庫県神戸市など、ほかにも多くの自治体が始めています。

八千代町における高齢者認知症徘徊の現状と対策について説明を求めるとともに、特にこの認知症高齢者等個人賠償責任保険事業についてどのような方向性を持っているのか、町長の見解を伺います。

2つ目に、生きがい対応型デイサービスの施設設置の整備について質問します。八千代町における総人口に占める65歳以上の高齢化率はさらに進み、本年7月現在で29.5%となっています。国立社会保障・人口問題研究所が公表した直近の将来推計によれば、2025年の単身世帯、ひとり暮らしのことをいいます、2015年より8.4%ふえて、総人口に占めるひとり暮らしの割合は16%となり、6人に1人強がひとり暮らしに変わります。特に注目すべきは80歳以上の単身世帯の増加です。80歳以上の単身女性は25年までに34%増加して223万人となり、全年齢階層の中で最も多くの単身世帯を抱えることとなります。また、伸び率という点では、70代男性と80歳以上の男性で単身世帯の伸びが高くなっています。70代単身男性の伸び率は51%、80歳以上の単身男性の増加率は55%も伸びていくと見られています。

そういう状況の中で八千代町の実態を見ますと、ひとり暮らしの高齢者世帯は414世帯、2人世帯は416世帯になります。ともに総世帯の11%です。その状況の中で、高齢者施策について住民はどのようなことを望んでいるのか。八千代町高齢者福祉計画はつつづプランのアンケート回答結果を見てみますと、町に力を入れてほしい施策の上位には、在宅医療の充実、介護サービスと家族介護支援の充実、健康づくりと介護予防の推進、ひとり暮らしの高齢者等の見守りと支援などが占めています。この結果を見るとおり、地

域に高齢者サロンのような施設がもっと必要であることが十分うかがえます。本年第1回定例会で高齢者交流サロン、いわゆるお茶飲み場の設置状況をお聞きしたところ、保健福祉部長から、町内2カ所の介護施設に委託しているとの答弁がありました。また、適正規模は何カ所あればいいのかとの質問に対し、委託事業所をふやすよう進めている。適正規模は、利用者、事業所の意見を聞きながら把握すると答えました。さらなる委託事業所増設の計画はあるのか、伺います。

次に、町の福祉政策として、助成金の予算化について質問します。現在、ボランティア活動の助成については、ふれあいいきいきサロンの4カ所、あんしん高齢社会応援ボランティアの4カ所とともに、月1回の開催で、いずれも赤い羽根共同募金を原資とした助成金です。こういった社会福祉協議会や老人会のボランティア活動に対し、1年目から2年目までは年額3万円の助成を、それから3年目から5年目には年額2万円を、6年目から10年目においては年額1万円を助成し、11年目以降においては補助金はなしという答弁でした。これでは高齢化がますます増加することがわかっている状況に逆行しております。血の通った福祉とは言えないと思います。町の福祉予算として支出を考えるべきではないでしょうか。

私は、先ほどの高齢者の要望に応えられるよう、生きがい対応型デイサービス施設、いわゆるお茶飲み場を設立するために順次活動をしてまいりました。地元有志の参加を得て、ボランティア団体、八千代町のこれからの福祉を考える会を立ち上げ、進めています。ようやく民間の住宅を提供してくれる方の協力が得られることになっていて、具体化は目前になっています。しかし、電気代、水道代、ガス代等の基本的な費用負担は必要です。八千代町の福祉対策として予算化し、助成することを要請します。こういった最低限の費用について町の助成が期待できれば誰でも施設開設に踏み切ることができるのではないでしょうか。谷中町長は、立候補時の公約の中で、誰もが住みやすい魅力ある八千代町を実現するための具体策の第1優先課題として、健康寿命の延伸化を2年以内の期限内で取り組むことを表明しています。福祉政策として、これら施設への助成金を予算化することに対し、どのように進めていくのか、町長に伺います。

次に、町委託事業の高齢者交流サロンの実施回数は、現在週1回、月4回を実施。一方、ふれあいいきいきサロンや地域包括支援センター養成のあんしん高齢社会応援ボランティアの方々の開催は毎月1回実施です。高齢者交流サロンの実施回数をさらに週2回にするとか複数回に開催頻度をふやすように支援すべきです。その理由は、高齢者が

通所する機会を多くして、施設内で行う趣味や行事に参加しやすいようにする。ボランティアスタッフが通所している高齢者の体調の変化などをすぐに察知できる安否確認の意味でも必要と考えます。もちろん実施するとなればボランティア要員の確保も課題になります。また、当然予算がふえることになります。それを後押しするためにも、先ほども言いました助成金の予算化は必要だと思います。今、高齢者対策は喫緊の課題です。どのように対策しているのか伺います。

次に、生きがい対応型デイサービス施設の視察研修を提案します。この件について質問します。生きがい対応型デイサービス施設の設立運営の先進地として、土浦市で取り組んでいるたいこ橋を紹介しました。我々有志で視察した上で提案したわけですが、その提案に対して保健福祉部長は、今後人口規模の近い自治体等の先進事例の情報収集に努め、検討するとの答弁でした。情報収集した結果、適当な自治体は見つかったのでしょうか。八千代町でも高齢者交流サロンは2つの事業所で実践しています。土浦市で取り組んでいる施設以外でも、適当な自治体があれば他の事例に学ぶ意味で視察するべきです。地元住民からも、同じような運営をしている施設をテレビ等で見かけた。自分も視察してみたいとの意見でした。よりよい生きがい対応型デイサービス施設運営のためにも視察研修することを再度提案します。

3つ目に、公共交通対策について質問します。私は、平成29年定例会において、デマンドバスの導入を提案しました。本議会において八千代町公共交通対策会議、令和元年9月30日の承認内容を、前企画財政部長から実施に向けた説明がありました。デマンド、予約制のことですが、デマンド交通を令和2年10月運行開始予定であることが報告されました。この間、実施に向けた関係者の努力に対し、高く評価をしております。高齢者からは、免許証を返上すべきか悩んでいることを聞き及んでいます。免許証返上の条件になるのは公共交通手段の確保です。さらに使いやすい公共交通システムの導入と、今後利用者にわかりやすい方法で周知する必要があります。どのような対策を考えているのか、伺います。

また、公共交通対策を考える上で重要なことは、一つの交通システムを導入した場合でも、住民の利便性、暮らしに合った足をいかに確保していくのかを常に検証していくことが求められていることです。これは対策会議の中でも触れられています。特にICT等技術革新が進んでいる現在では、新しい技術によって既存の交通システムが陳腐化してしまうという危険と隣り合わせと言えます。継続して検証していく組織体制が必要

と考えます。今後の対応について伺います。

デマンド交通導入の上で、利用者との連絡方法に電話での対応を取り入れる方針と聞きました。将来的にはタブレットでの連絡方法を提案したいと思います。そういった意味で、スマートフォンで直接配車し、マイカーを使った新しい公共交通の実現をしている京都府丹後町取り組みを紹介します。道路運送法に基づく公共交通空白地有償運送、愛称ささえ合い交通の実践です。地元のNPO法人が運行主体となり、住民ボランティアがドライバーとして、自分が所有する自家用車、マイカーを使って、地域住民に加え、観光客も運ぶという公共交通であります。利用者が車を呼ぶにはスマートフォンでウーバーのアプリを使って、即時配車、乗車を行うというICTを活用した先進的なシステムを取り入れています。GPS、地図情報システムを使った公共交通空白地有償運送は日本初と伺います。このシステムが八千代町に合っているかは今後検討する材料として取り上げました。八千代町に合った交通システムは何か、幅広く検討していただくよう要望します。

次に、八千代町でも広域連携バスを導入できるよう検討すべきです。町民の皆さんの強い要望があるのが買い物支援です。町内だけでなく、イオン下妻店等に行きたい方が多いです。全員協議会の中でも他の議員からの要望がありました。特に下妻市との広域連携バスについては、一定の需要はあると思います。下妻市にとっても、八千代町住民の利用客を取り込めるので、メリットがあると思います。他の近隣自治体との連携バスや既存のバス事業者との連携を含めて協議する計画はあるのか、町としてどのような対策を考えているのか伺います。

以上で質問を終わりにします。

議長（中山勝三君） 保健福祉部長。

（保健福祉部長 塚原勝美君登壇）

保健福祉部長（塚原勝美君） 議席番号4番、増田光利議員の通告による一般質問にお答えいたします。

1番目、認知症対策について、(1)、八千代町の認知症者の現状と対策についてでございますが、平成31年3月末現在の本町における医師の診断による認知症高齢者数は、日常生活に支障を来すような症状、行動や意思疎通の困難さが多少見られる軽度者から、精神症状や問題行動、あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする重度者まで、介護認定者数875名のうち598名となっており、介護認定者の68.3%を占めており

ます。

認知症対策事業といたしましては、認知症の方やその家族を支えるつながりを支援し、家族の介護負担軽減を図るための交流や、認知症に関する情報知識を学ぶための認知症カフェ、オレンジカフェやちよを毎月第1土曜日と第3水曜日に開催しております。また、認知症について正しく理解し、偏見を持たず認知症の人や家族を温かく支援する認知症サポーターの養成を平成18年度から開始し、平成31年3月末で1,570名のサポーターを養成しております。さらに、認知症講演会の開催や、平成30年度からは65歳からおおむね70歳の男性を対象とした認知力・筋力アップ講座を開催し、12名の方が受講されました。今後につきましても、引き続き認知症サポーター養成講座や男の認知力・筋力アップ講座を開催するとともに、認知症カフェ、オレンジカフェやちよにつきましては開催回数をふやしたいと考えております。

次に、(2)、八千代町における高齢者認知症徘徊の現状と対策についてでございますが、今年度の認知症による徘徊の現状につきましては、現在までに2名の方の通報がございました。いずれも当日中に発見され、無事保護されております。対策についてでございますが、茨城県において平成30年2月より実施しております茨城県おかえりマークへの利用登録がございます。この事業は、認知症等により徘徊行動の見られる方、または徘徊のおそれがある方をご家族等が事前に町へ登録し、町は登録番号の入ったおかえりマークを配布いたします。このおかえりマークを靴やつえ、衣服など身の回りのものにつけておくことにより、外出先から自宅に戻れなくなり、警察に保護された場合に、おかえりマークの登録番号からご本人を特定し、迅速にご家族へ連絡することができるというものでございます。本町では、現在2名の方が登録されております。

また、認知症高齢者等徘徊対応マニュアルを現在作成中でございます。このマニュアルは、認知症のある高齢者が行方不明になった場合や身元不明の高齢者等を保護した際の捜索協力等を明確にしたもので、ご家族の同意を得た上で、従来の見守り協定締結事業所や近隣市町村への捜索依頼をすることにより、行方不明者の発見、または身元不明者の保護を速やかに行うことを目的としております。

次に、(3)、認知症高齢者等個人賠償責任保険事業についての見解についてでございますが、認知症高齢者等個人賠償責任保険事業は、認知症高齢者等が日常生活において他人にけがをさせたり、他人のものを壊したりしたことなどにより、法律上の損害賠償責任を負った場合に保険金の支払いを自治体が保険契約者となって保険料を全額負担す

る事業で、認知症の方やその家族が地域で安心して生活することができる環境整備を目的としたものと思われます。まずは、認知症の徘徊高齢者等を家族とともに住みなれた地域全体で見守っていくことが第一でございますが、今後は認知症高齢者の増加や家族形態の変化などに対応し、本町に即した事業を展開できるよう、県内市町村及び先進事例の情報収集に努めてまいりたいと考えております。

続きまして、大きな2番目の介護予防について、(1)、生きがい対応型デイサービスの整備について、①、高齢者サロンの委託事業所の増設策と助成金の予算化についてでございますが、本年3月の一般質問でも答弁させていただいておりますが、現在本町では2カ所の介護施設に委託し、町内在住65歳以上の高齢者を対象に、高齢者交流サロンを週1回以上、年48回以内で、1回当たりの開催基準時間2時間以上、委託料は開催1回当たり5,000円という委託契約でございます。平成30年度の実績でございますが、参加者実人数は52名、延べ参加者人数は671名、1回当たりの平均参加人数は約13名となっております。参加者の意見としましては、サロンの日が待ち遠しい、人と話すことが楽しいといった意見があると聞いております。また、委託事業所につきましては、町内複数の介護事業所に打診しているところでございますが、本来の事業活動に支障のない範囲で活用できる施設及びスタッフの確保、参加者を必要に応じて送迎可能であることや集まりやすい立地場所などの諸条件を満たしていることなど、受け入れ事業所の確保に苦慮しているところでございます。今後も事業に必要な予算を確保しつつ、事業所の理解を得ながら拡充してまいりたいと考えております。

次に、②、高齢者サロンの開催日程を週1回から複数回実施することについてでございますが、先ほど述べましたとおり、介護サービス事業所の事業活動に支障のない範囲で協力をお願いしているところでございます。ひとり暮らしの高齢者世帯が増加する中、高齢者の生きがいづくり、ひきこもり防止や活躍の場を提供できるよう、集いの場を確保し、ボランティアを養成し、活用することで、事業の推進拡大を目指してまいりたいと考えております。

次に、(2)、生きがい対応型デイサービス施設視察の再提案についてでございますが、先ほど述べましたとおり、事業の拡大のため、地域のニーズを把握することはもとより、官民共同で受け入れ施設を確保し、運用している事例等を調査し、必要に応じて視察し、参考としたいと考えております。

認知症等高齢者に対する各種事業につきましては、今後とも町広報紙や町ホームページ

ジ等を活用いたしまして住民の方々へ周知を図りますとともに、住民の利便性を第一に考えまして、よりきめ細やかで丁寧な相談体制の充実を進めてまいりますので、ご理解のほどよろしく願いいたします。

以上、答弁とさせていただきます。

議長（中山勝三君） 企画財政部長。

（企画財政部長 中村 弘君登壇）

企画財政部長（中村 弘君） 議席番号4番、増田光利議員の通告による一般質問にお答えいたします。

公共交通対策についてのご質問にお答えいたします。初めに、公共交通対策として、令和2年度中の実証運行の準備状況についてのご質問でございますが、議会議員を初めとする町民の代表者や交通事業者、国、県の関係行政機関などで構成されております八千代町公共交通会議におきまして、新しい公共交通の運行について協議検討をしていただきました。具体的には、予約制のデマンド交通とコミュニティーバスの有償または無償の3案について協議、検討を重ねていただき、その結果、予約制のデマンド交通が八千代町の地域性に適しているという結論に至りまして、本年9月に開催されました公共交通会議の中でご承認をいただいたところでございます。新たなデマンド交通の運行につきましては、令和2年10月の運行開始を目指し、準備を進めてまいりたいと考えております。デマンド交通の運行内容につきましては、自宅の前から公共施設や医療機関、商業施設などの町内のさまざまな目的地まで予約時のみ運行を行う交通システムでございます。

なお、予約につきましては電話での受け付けを考えておりますが、将来的、段階的には高齢者のタブレット等の利用状況などを考慮いたしまして、タブレットなどのICT機器からの予約についても検討してまいりたいと考えております。

運行開始に向けたスケジュールにつきましては、令和2年3月の議会定例会におきまして、デマンド交通の導入を初めとする令和2年度の当初予算をご審議いただき、そして公共交通会議におきましては、運行についての許可申請内容についての承認をいただき、その内容をもとに、関東運輸局に対して運行許可の申請を行っていきたいと考えております。

また、住民の方への周知が重要な課題でございますので、5月から6月ごろには小中学生や一般公募によりデマンド交通の愛称を募集するなどして、デマンド交通をより身

近なものと感じてもらえるよう住民への周知活動を行ってまいります。また、利用者の事前登録及び利用券の販売を行いまして、令和2年10月からデマンド交通の運行が開始できるよう準備を進めてまいりたいと考えております。

また、運行開始後も毎年公共交通会議において事業の検証を行い、利用者目線に立った利便性の向上や利用者増を図るとともに、国や県の補助金を活用して、財政負担の軽減に努めてまいりたいと考えております。

次に、近隣自治体との広域連携バスの実現についてのご質問でございますが、茨城県内の状況を申し上げますと、県におきましては、広域連携バスについては複数市町村が連携して運行経費を負担しているものと定義をしております、単一市町村が費用を負担しているものにつきましてはコミュニティバスとして分類を行っております。県内の広域連携バスにつきましては、8市町で5路線が運行されております。水戸市、城里町にまたがる石塚赤塚線、牛久市、稲敷市の稲敷エリア広域バス、鹿嶋市、行方市、潮来市の神宮あやめ白帆ライン、行方市、潮来市の鹿行北浦ライン、かすみがうら市、行方市の霞ヶ浦広域バスが運行されております。また、複数市町村にまたがって運行しているバスはコミュニティバスの乗り入れという形で、県西地域におきましては、筑西市の広域連携バス、桜川市のヤマザクラ号がつくば市の筑波山口まで乗り入れを行っております。そのほか、古河市や五霞町におきましては、埼玉県内の駅まで乗り入れを行っております。なお、下妻市と筑西市におきましては、現在広域連携バス路線について調査、検討していると伺っております。

本町におきましては、来年度運行開始を予定しておりますデマンド交通につきましては、町内のさまざまな場所へ移動できる公共交通として整備するものでございますので、その利用状況を注視するとともに、町民の声を聞きながら、次のステップとして、広域連携バスの運行や財政負担について検討してまいりたいと考えておりますので、議員皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げます、答弁とさせていただきます。

議長（中山勝三君） 町長。

（町長 谷中 聰君登壇）

町長（谷中 聰君） 議席番号4番、増田光利議員の通告による一般質問にお答え申し上げます。

初めに、認知症対策、介護予防についてのご質問でございますが、詳細につきましては担当部長が答弁したとおりでございます。

団塊の世代が75歳以上となる2025年が目前となり、今後ますます高齢化が加速し、認知症高齢者や高齢者の孤立化が顕著になることと思われませんが、認知症高齢者等個人賠償責任保険事業につきましては、先進事例の情報収集に努め、本町に即した事業展開ができるよう検討してまいりたいと考えております。

また、公約の一つ「いつまでも暮らしたいまち」実現のためのプロジェクト、健康寿命の延伸化の中に高齢者の活動の場の整備を掲げておりますとおり、地域に密着した高齢者交流サロンや認知症高齢者や家族のための認知症カフェなど実施場所の増設は必要なことと考えております。委託事業所等の理解を図りつつ、ボランティアの養成に一層努力し、事業の推進を進めてまいりたいと考えております。

生きがい対応型デイサービス施設視察につきましては、地域のニーズを把握しながら参考となる先進地事例を確認し、前向きに検討したいと考えております。ぜひとも時間をつくりまして視察に行きたいとも考えておるところでございます。

高齢者が可能な限り住みなれた地域で能力に応じた自立した日常生活が営めるよう努力していきたいと考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願ひしたいと思ひます。

続きまして、公共交通対策についてのご質問でございますが、令和2年度中の実証運行の準備状況について、近隣自治体との広域連携バスの実現については、担当部長が答弁したとおりでございます。八千代町公共交通会議におきまして、新しい公共交通の運行についての協議、検討をしていただき、予約制のデマンド交通が八千代町の地域に適しているという結論に至り、ご承認をいただいたところでございます。八千代町公共交通会議は、道路運送法に基づきます法定協議会であり、規約に、「交通会議において協議が整った事項について、関係者はその結果を尊重し当該事項の誠実な実施に努めるものとする」と規定をされてございます。私は、1年半に及ぶ協議の結果と、その努力に対し深い敬意を表するとともに、協議結果を尊重し、令和2年度中の運行に向け、事務を進めてまいりたいと考えておりますので、ご理解、ご協力のほどよろしくお願ひ申し上げます。

次に、近隣自治体との広域連携バスの実現については、将来的な課題として認識し、まずはデマンド交通を町民生活に定着させ、町外への広域連携バスの運行を望む町民の声、また関係機関の意見なども把握してございます。次のステップとして、近隣自治体との協議を行い、公共交通会議に諮ってまいりたいと考えておりますので、議員の皆様方のご理解、ご協力をお願ひ申し上げます。

以上、答弁とさせていただきます。

議長（中山勝三君） 再質問ありますか。

4番、増田光利議員。

4番（増田光利君） 再質問します。

家族の認知症対策について質問します。家族が認知症になって付き添って、福祉課へ相談してもなかなか認定されないとの声を聞きます。認知症になっている方の実態は、認知症になっていることを公表したくないなどの理由で、町が把握しているよりも多いと思います。どのような対策をしているのか、ご説明ください。

一方、認定された場合でも、介護施設に十分入れるような状況はあるのでしょうか。認知症についての八千代町高齢者福祉計画やちよはつらつプランのアンケート調査では、ふえる認知症の方への対策として、町に重点的に取り組んでもらいたい施策で最も多いのは、認知症の人が利用できる介護施設の充実で46.3%になっています。介護施設の充実の意味でも、今後小規模特養ホームの施設等が必要と思います。これから町としても取り組んでいただけるように要望して、以上で質問を終わりにしたいと思います。

さっき言った認知症になっている方の中で、町が把握していることよりも多い、その対策についてどういうふうにやっているのかということ、それだけ説明していただきたいと思います。実際に認知症になっている、町が把握している数よりも、それ以上に認知症になっている方は多いと思います。それについて報告されている以外の方の認知症というのも実際には多くいると思うのです。それに対してどのように対策を進めていくのかということを知りたいと思います。

議長（中山勝三君） 保健福祉部長。

（保健福祉部長 塚原勝美君登壇）

保健福祉部長（塚原勝美君） 4番、増田光利議員の再質問にお答えいたします。

町が把握していない認知症の方への対応ということでございますが、町へご相談、包括等へのご相談がないと町としても把握できないということございまして、町で把握するというのは非常に難しいと思っております。ケアマネジャーの方からのそういったお話、そういったもので町として把握するしかございませんし、認知症の方というのはいつも認知症にかかっているわけではなくて、普通の方と変わらないような状況のときもございます。ご家族の方でしたらそういった状況は把握できると思いますが、知人の方がそのお宅に訪問してお話をしていると、おばちゃん認知症だったのというような

お話を聞く場合がございます。ですから、そういった場合、ご家族からご相談していたかからない限り町としては把握するのは非常に難しいということでございまして、対策は非常に困難であると言わざるを得ないと考えております。

以上でございます。

議長（中山勝三君） 最後に、再々質問ありますか。

4番（増田光利君） 終わります。

議長（中山勝三君） 以上で4番、増田光利議員の質問を終わります。

ここで暫時休憩いたします。

（午前10時10分）

議長（中山勝三君） 休憩前に戻り、会議を再開いたします。

（午前10時23分）

議長（中山勝三君） 次に、3番、安田忠司議員の質問を許します。

なお、3番、安田忠司議員より資料配付の要望がありましたので、これを許可し、議席へ配付しましたので、申し添えます。

3番、安田忠司議員。

（3番 安田忠司君登壇）

3番（安田忠司君） 議長の許可を得ましたので、ただいまより質問させていただきます。

まず最初に、今回大きな大災害がありまして、台風15号大雨と19号に関しては、関東から長野、東北一帯にかけて激甚災害の指定を受けて、亡くなられた方、本当にお悔やみを申し上げます。それと、けが、被災をされた方、心からお見舞いを申し上げ、一日も早い回復をご祈念申し上げます。

それでは、始めさせていただきます。1番目といたしまして、6次産業化とまちづくりについて。6次産業と農商工連携事業、これによる地域活性化と所得、生産性の向上について。2番目といたしまして、安心、安全、希望の持てるまちづくりの基本的な考え方について。企業の誘致、住宅の整備、生活環境の整備等について。3番目といたしまして、教育環境の整備について。今後、国、県等も義務教育学校の統合について、いろいろ案件がありまして進んでいると思いますので、当町についての考え方。それと、

遠距離通学に対してのスクールバス、これの運行についても今後どのように考えているかについてお願いをしたいと思います。

まず最初に、1番目の6次産業化、これ先ほど資料も配付させていただきましたが、境町で11月の23日から26日まで日本に滞在をいたしましたローマ教皇（法王）フランシスコに県西地域の特産品であるさし茶が献上されましたということを報道された新聞記事でございます。それに関しまして、6次産業というのはどういうものか、農商工連携というのはどういうものかを具体的に簡単に説明をしてから内容に移りたいと思います。6次産業とは、我々の日常生活の中で営まれている産業が第1次産業、第2次産業、第3次産業と3つの産業がありますが、この中の第1次産業、農業、林業、漁業などの自然の資源を活用する産業のことが第1次産業。第2次産業といたしましては、鉱工業、製造業、建設などが属します。1次産業で採取しました資源を加工する産業で、食品加工の工場とか製材屋さん等がこれに当たります。3次産業といたしましては、1次産業や2次に含まれるサービス業などを示し、金融、保険、卸売、小売、サービス業、情報通信業などがこれに当たります。加工されました商品を店頭で売ったり、飲食店で供給する産業ということで分類されております。この3つに当てはまらない6次産業とは何でしょうかということなのですが、6次産業とは6次産業化されました1次産業と2次産業、3次産業というように、1次から3次産業をかけ合わせた言葉で新しい言葉なのです。1次産業の業者が自身で加工、販売まで一体的に取り組み、新たな付加価値を生み出すことを示しているということでございます。

それと、農商工連携なのですが、これは農村、漁村において、その地域の特徴ある農林水産業、美しい景観など新しい長い歴史の中で培ってきた貴重な資源がたくさんありますが、そういうものを示しており、農商工連携はこうした資源を有効に活用するため、農林漁業者と商工業者の方々がお互いに技術やノウハウを持ち寄り、新しい産業やサービスの開発、提供、販路の拡大などに取り組むことを指しております。現在、全国各地で農商工連携推進法ができて、それを活用し、創意工夫を発揮した多様な取り組みが始まっておりまして、ローマ教皇（法王）の境町のさし茶の献上はこれの一環に当たると思います。当八千代町におきまして、境町には負けないほどの歴史と伝統と文化、これが存在しておりますので、それを駆使して農商工連携と、それと6次産業を組み合わせたような形で、これあくまでもさし茶1品に限られていますが、当町においては恐らく土壌もNPKの窒素、リン酸、カリ、それからミネラル分、物すごい栄養分

があった、恐らく日本でも有数の農地の生産基地になるのではないかなというふうに考えておりますので、ぜひJAさん、商工業者、それと生産者と行政と一体となった仕組みづくり、これがこれからの課題かなというふうなことで、恵まれた地域で幾らでも可能性があるのではないかなというふうなことで、この基本的な考え方を、町のほうの考え方を聞かせていただければというふうに思います。

それと、安心、安全のまちづくりに関しては、町長も安心、安全で住みよいまちづくりということで、企業の誘致、住宅の整備、生活環境と関連してくると思うのですが、生活環境の整備ということでは、先ほど冒頭にありました大災害の話をしていただいたのですが、IPCC、これは国連の気候変動に関する政府間パネルの略でございます、人為的起源による気象変化、影響、適応など緩和方策に関し、科学的、技術的、社会的、経済的な見地から包括的な評価を行っている機関でございます。この機関の発表によりますと、本年度、令和元年度に関しては、我が国が世界で例のない災害があった、恐らく最高の被害のあった地域ではないかなというようなことをもう発表されております。そうしますと、八千代町、たまたま水害、災害なかったのですが、近隣の下妻に関しても、常総、古河、小山、境に関しても、物すごく災害が発生したと。そういうふうな状況が報告されておりますが、まだ茨城県内においてもひたちなかですか、インターの付近が2メートルから2メートル50ぐらい水没するというふうな災害に遭っております、人ごとではないと。それと地球変動で、このIPCCの報告によりますと、台風、それからゲリラ豪雨、そういうものが恐らく再来するのではないかなというふうな危険性も含まれているというふうな報告も受けておりますので、ぜひ安心して暮らせるまちづくりの中で、町長さん、執行部のほうの地域住民の安心、安全の生活環境の整備ということでお話を聞かせていただければというふうに思います。

それと、教育環境の整備に関しましては、安心、安全で学校に通える通学路、これ歩道が整備されているところはいいのですが、整備されていないような場所、危険箇所というようなところが何か所かあるのではないかなという。育成会のほうでいろんな話が出まして、子ども育成会のほうでお話を聞かせていただいて、安心、安全に通学ができるような対策ですか、そういうふうなものを町として把握をしているのか。各地域によって違うと思うのですが、そういう箇所があれば、そういう箇所の箇所数と、どういう対策をしているかというようなこともやはり大事になってくるのかなというふうに思いますので、お願いをしたいと思います。

それと、歩道の整備に関しては、これから西風が吹きますとほこりが飛びまして、ほこりが吹きだまりになりまして、雨や雪が降りますと、それが流れてぬかるみになるのです。歩道の低いところに蓄積されまして、それがぬかった状態で乾燥しても、歩行するのに困難な状態、障害が起きるような、そういう場所が見受けられるというようなことも聞いておりますので、その対策。そういうふうなことが起きた場合の対策。

それと、西風が吹いてほこりがたまって、冬はそのままでもいいのですが、春になりますとそれが今度、養分がありますから雑草が生えるのです。雑草の部分も除去しないと物すごく大きくなって、今の雑草物すごく根が強くて繁殖が早いのです。そういうようなことで通学するのが困難な状態になってくるのではないかなというふうなことも、それは1年ぐらいで簡単に片づけられればいいのですけれども、何年も蓄積すると、その草がかなり繁殖して、歩道の役を果たさないのではないかなというようにも聞いておりますので、そういう部分。歩道がかなり整備されておりますので、そういう部分もどういうふうな形で対処していかないと、今後やはりどんどんほこりがたまって草が大きくなっていくと、手をつけられないような状態になってきますと大変かなというふうなことも考慮していただきたいと。

それと、やはり伐採をしなくてはならないような、竹なんかも繁殖力強いものですから、そういう竹、雑木林、そういうふうな脇の対策なんかも必要なかなというふうに思います。

それと、寒くなってきますと雪が降りますので、これ日陰の部分に雪が積もりますと、その日のうちに片づけないと、次の日になってくると、夜気温が下がっておりますので、凍ってアイスバーンになってしまうのです。日陰になっておりますと、そのアイスバーンの部分が1週間、10日溶けないと。そうしますと、歩くのにも危険だし、やはりでこぼこしていますので、歩道を歩くようになってしまうのです。危険性が増大をするというようにも聞いておりますので、そういう点の雪かき、環境対策もやはり大事なかなというふうに思いますので、その辺もひとつお願いをしたいというふうに思います。

それと、デマンド交通の仕組みが来年度から始まるということなのですが、デマンド交通とスクールバスの併用なんかも政府のほうでも、文科省のほうも、経済産業省のほうも考えていまして、どうしたら地域が活性化して、人口が増加して魅力あるまちづくりができるかというようなことを真剣に考えておまして、新規性のいろいろな企画、それが発表されておまして、それがコンピューターを利用したデジタル・ニューディ

ール政策という、そういうふうな打ち出しをしたのです。A I と 5 G の促進に補正予算で 1 兆円をつけると。今回の予算で、これ補正ですので、1 兆円の政府で予算をつけるなんていうのはなかなか事業がないと思うのです。そういうふうな政府のほうも A I と 5 G、I o T を生かしたシステムづくりに、学校、企業にも導入して、地域の活性化を図るといようなことを進めておりますので、ぜひデマンド交通も、先ほどの増田議員さんの質問にもありましたデマンド交通と、これもし新しく入れればスクールバスの運用を、I T と A I の高速回線通信網を利用したシステムづくり、これがこれから大きな課題になってくると思いますので、当町においてもぜひ検討していただいて、新しい新規性の企画を国、県のほうに提案していただきまして、提案の補助金かなりついているというふうなことも聞いておりますので、ぜひ新しい企画を提案をしていただきたいというふうに思います。

それと、関連しております境町のちょっと農商工連携のところリンクするのですが、農商工連携の 8 分類に分かれた仕組みづくりというのが I T と生産性のほうと関係しているのです。それはどういうことかということ、規格外や低未利用品の有効利用。それと 2 番目に、生産履歴の明確化や減農薬の栽培等による付加価値の向上。それと、作目や品種の特徴を生かした需要の拡大。それと、新規開拓による地域農産物の需要の拡大、ブランドの向上。I T、ここも学校関係、企業全部入ってくるのですが、I T、A I と 5 G の促進と政府補助予算、先ほど言いましたように、1 兆円の予算を計上するというようなものですから、新しい技術を活用した生産や販売の実現。それと、観光とのタイアップによる販路の拡大。海外の輸出による販路の拡大。8 番目といたしまして、農林漁業団体による取り組み、これは J A さんとか農業協同組合と商工会、地域の生産者、行政が一体となった仕組みで、学校、企業、それと地域の活性化に組み合わせればというふうなことを全部関連しておりますので、以上、ちょっと 3 つの中で順番は狂ったのですが、この内容について質問をしたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

議長（中山勝三君） 産業建設部長。

（産業建設部長兼都市建設課長 木村和則君登壇）

産業建設部長兼都市建設課長（木村和則君） 議席番号 3 番、安田忠司議員の通告による一般質問にお答えします。

ご質問の農商工連携事業と 6 次産業による地域活性化と所得、生産性の向上について

でございますが、近年において農業を取り巻く環境は、消費者の食生活の多様化や健康志向による食品の安心、安全に対する関心の高まりに加え、農業従事者の高齢化や担い手不足、農産物価格の低迷への不安など、以前にも増して厳しい状況となっております。本町においても例外ではないため、農業のさらなる発展や地域の活性化及び農業所得の向上を図るべく、農産物の生産や販売面での支援を行っているところでございますが、ご質問の農商工連携や6次産業化は1次産品である農産物を加工したり直接販売することにより、その付加価値を高め、収益性の向上や安定を図る有効な方法であると認識しております。また、それらの取り組みにより加工品などができることは、1次産品の農産物のPRやブランド化の推進にも寄与するものと考えております。

まず、農商工連携でございますが、議員のお話のとおり、国では農商工連携促進法により、農林漁業者及び中小企業者が共同で作成しました農商工等連携事業計画を認定し、認定を受けた者に対してさまざまな支援措置を講じることにより、産業間連携を強化して、地域の活性化を進めております。町においても、JA常総ひかりや生産者団体に対して積極的に働きかけるとともに、それら団体と連携して取り組む食品企業の発掘を行うなど、その推進に取り組んでまいりたいと考えております。

次に、6次産業化でございますが、本町の6次産業化の事例を申し上げますと、精肉店を営む畜産農家がみずから生産した牛肉及び町内産のハクサイを使用し、ハクサイメンチカツを製造、販売しております。また、お茶の生産者が特産品であるさしま茶をペットボトルやティーバッグ、さらにはアイスクリームなどに商品化し、製造、販売しており、さらにはそばの生産者が常陸秋そばを商品化した生そばを製造、販売しております。いずれの商品につきましても、町内外の飲食店や直売所、道の駅などの近隣の商業施設において販売されており、好評を得ているところでございますが、このような取り組みは八千代町においてまだまだ少なく、今後の取り組みの拡大が必要であると感じているところでございます。

町の本年度の取り組みといたしましては、8月22日、役場、JA常総ひかり、茨城県結城地域農業改良普及センターによる各担当職員が千葉県旭市にあるJAちばみどり飯岡支店を訪問し、地元ブランドメロンである飯岡メロンによる6次産業化についての研修を実施し、情報収集等に当たっております。また、11月26日には、八千代町認定農業者を対象とした6次産業化研修会を、茨城6次産業化地域プランナーを講師として招き、本庁舎において実施しております。

農商工連携や6次産業化への取り組みにつきましては、加工や直販などにより、農産物の付加価値の向上やブランド化などが図られ、地域農業全体の活性化にもつながるものであり、非常に重要であると考えておりますので、今後とも農業者等の取り組みを推進するため、国、県が実施している支援措置等の活用支援や茨城県農林振興公社に設置されております茨城6次産業化サポートセンターと連携、協力し、研修会の開催や情報の提供などに取り組んでまいります。

以上につきまして、農業関係の各種団体や関係機関との連携、協力を図りながら、本町の農業の発展と活性化に取り組んでまいりたいと考えておりますので、ご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます、答弁とさせていただきます。

議長（中山勝三君） 町長。

（町長 谷中 聰君登壇）

町長（谷中 聰君） 議席番号3番、安田忠司議員の通告による一般質問にお答え申し上げます。

初めに、6次産業化とまちづくりについてのご質問でございますが、本町において農業は基幹産業であり、野菜、梨等を初め、稲作、畜産など幅広く取り組まれておりますが、中でも野菜は全国の市町村別産出額が7位と一大産地を形成しているところでございます。この基幹産業である農業の維持発展を図ることは、本町にとって大変重要な課題であります。また、選挙公約にも掲げました6次産業の起業発掘は、これまでの農業施策に加え、今後推進すべき重要課題であると考えておるところでございます。引き続き、「メイド・イン・やちよ」を全国へ発信すべく、都市部への生鮮食料品供給基地としての農産物の品質や生産性の向上を初め、ブランド化などに取り組むとともに、ご指摘の農商工連携や6次産業化につきましても、地域の活性化や所得などの向上を図るため、起業者の発掘やその取り組み支援を強化してまいりたいと考えております。

続きまして、安心、安全、希望の持てるまちづくりの基本的な考え方についてのご質問でございますが、まず企業の誘致につきましては、町と茨城県開発公社が共同で開発しました八千代工業団地の早期誘致完了を目指しまして進めてまいりたいと考えております。

今後の工業系基盤の整備につきましては、令和3年度からの第6次総合計画及び都市計画マスタープランを現在策定中でありまして、その中で新たな工業用地の確保につきましても検討していきたいと考えております。排水の問題、優良農地や近隣の住民と

の調整など、さまざまな課題に対する調整が必要になりますので、幹線道路や公共下水道などのインフラ整備と併せまして、中長期的な課題として、総合的かつ計画的にまちづくりを進めてまいりたいと考えております。

次に、住宅の整備につきましては、自然環境の保全を図りながら、合理的かつ計画的な土地利用を推進してまいります。特に市街化区域における住居系のエリアにおいては、土地区画整備事業による都市計画道路の整備や公共下水道事業の整備により、良好な生活環境の整備に努めてまいります。

また、人口の定着を図るため、土地区画整理事業の早期完成に努めるとともに、まち・ひと・しごと創生総合戦略において定住促進事業として位置づけております保留地住宅支援助成制度、新婚家庭家賃助成事業、転入者住まい応援事業など、八千代町で新生活を始める世帯への支援を引き続き行い、さらに住居を求める人の受け皿を拡充するため、空き家バンク制度の導入や民間企業と連携した取り組みについて、他自治体の先進事例も参考にしながら、検討を進めてまいります。

次に、生活環境の整備につきましては、幹線道路としての国県道の改良整備について、国、県の関係機関に要請していくとともに、筑西幹線道路の整備を引き続き実施し、広域的な交通ネットワークの確保を図ってまいります。さらに、広域的な幹線道路へのアクセス道路でもあります一級町道8号線を初めとする町道につきましても、計画的に整備を進めてまいります。

また、町民の生活に欠かせない水の安定供給につきましても、計画的かつ効率的な上水道事業の運営に努め、生活排水対策としましては、鬼怒小貝流域下水道事業や公共下水道事業の整備促進、合併浄化槽の普及、農業集落排水の適切な維持管理に努めてまいります。

さらに、公共交通の維持確保につきましては、町民の移動の利便性向上を図るため、路線バスなど既存の公共交通の維持確保に努めるとともに、来年度からは町内のさまざまな場所にさまざまな目的で移動できますデマンド交通の運行開始に向けて準備を進めているところでございます。

今後とも、私の理念であります「いつまでも住み続けたいまちづくり」を実行してまいりますので、議員の皆様方のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

続きまして、教育環境の整備についてのご質問でございますが、義務教育学校の統合につきましては、現在県内には小学校課程から中学校課程までの9年間の義務教育を一

貫して行う義務教育学校が9校設置されており、そのうち県西地区には1校が設置されております。

当町におきましては、児童生徒の人数や学級数が大幅に減少することなく、現在の学級数は少なくとも今後5年間維持できる見通しでございます。将来的には当町においても少子化により各小中学校の統廃合や義務教育学校の設置も考えられますが、各小学校は地区の中心的存在であり、その地域住民の理解も必要となってくるため、慎重に丁寧に議論を重ねることになると考えております。

次に、スクールバスの運行につきましては、学校の統廃合や義務教育学校が設置され、児童生徒の通学環境等に変更があった場合等、将来的にはスクールバスの活用を慎重に検討していく必要があると考えております。ご理解のほどお願い申し上げます。

最後に、ローカル5G、IoT、AIの活用につきましても、早急に調査検討してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

以上、答弁とさせていただきます。

議長（中山勝三君） 再質問ありますか。

3番、安田忠司議員。

3番（安田忠司君） ありがとうございます。先ほど開発と工業団地の誘致なんかも考えているというようなこととお聞きをさせていただきました。日野自動車是三和地区に来まして、大分交通の渋滞なんかも目立つようになってきてまして、十間道路から、それから125号線、内山街道なんかも大分混雑しております。そういう中で、お隣の結城市、筑西市、下妻市、坂東市、境町、小山市、野木町等も大分道路の整備なんかもかなり進んでいるのです。今まで小山のほうには仕事の関係上、ほとんど毎日くらい通っていたのですが、何本も、前は国道4号線とバイパスができてまして、大分交通の量がこちらへ来まして旧道、それと東北線、新幹線の下なんかも、こちらが西と東が分断されていたのですが、物すごく今道路開発が進んでいまして、警察署とか消防、小山市民病院なんかは神鳥谷のほうに来て、小山から野木までつながっているような状態なのです。目まぐるしく変わっていると。そういうふうな隣接地の開発行為、坂東市においても今度50ヘクタールぐらい高速道路のインターの近くに開発が進むというふうなことも聞いておりますので、八千代町に関しても、古河に日野自動車に移転をして、その関連子会社が結城の工業団地、下妻、境、坂東と多く移転をしてくれておまして、今後やっぱりそういうふうな開発状況が、八千代町も早く考えていかないと人口が低下をして、学校なんか

に関しても、自分PTAの役員やらせてもらいまして、当時としては、中結城だったのですが、600人近い子どもさんがいまして、今半分くらいになってしまっているのです。そういうのを考えますと人口減が、子どもさんも少なくなっておりますので、ぜひ安心して安全に暮らせる魅力のあるまちづくり。大型総合開発なんかも、農振地域でもやはり行政のほうと地域の方が一体となれば開発もできるというようなことも聞いておりますので、総合開発の協議会とか、町を発展するための協議会なんかも立ち上げまして、議会の中でも専門部会がありますので、そういう中で協議会を立ち上げて、どんどん新しいまちづくりに貢献をして、それで地域発展のために魅力あるまちづくりに役立ててもらったらいいのではないかなというふうに考えております。

それと、さし茶なのですが、6次産業と農商工連携、これはやっぱり一日にしてはできないのです。境の町長さんも、ローマ法王と謁見するのに1年半から2年ぐらいかかったと。これは早いほうだと思うのです。有名な言葉にローマは一日にしてならずという言葉がありますが、さし茶も調べてみますと、関ヶ原の合戦の後、1627年のころから関宿藩で生産されたような文献が残っているのです。それから生産、それと品質の改良含めまして、1859年、今から160年前、さし茶を輸出をしている記録があるのです。そういうふうなことで、さし茶が有名で、やはりヨーロッパの紅茶とかコーヒー圏内に輸出するというのはなかなか大変だと思うのですが、そういうふうな地域のやはり伝統と文化を生かした魅力ある生産品を産出するというふうなことも八千代では真剣に取り組んでいただければ幾らでもそういう品物が、それとPRが大事だと思うのです。商工業者のほうも550社ぐらいありますので、ぜひ商工業者、JAさんと連携をして、やはり活性化に向けていただけたらいいのではないかなと思います。

それと、追い風になっているのは、八千代町は農業の生産産地で優良農地がたくさんありますので、国のデータによりますと、食料自給率、現在37%ぐらいに下がってしまっているのです。そういうふうなことを考えてみますと、東京と神奈川、埼玉、千葉、ここで日本全国の大体3割から4割近くの人口が、その台所として供給基地が八千代でできるのではないかなと。安定して供給できるような、1年を通して野菜、果物、お米生産できますので、そういう点ではしっかりとした地域連携で農業の生産者、行政と商工業者と組んだ形で協議会か何かをつくりまして提案をして、人材の育成と新しい品種の、伝統と文化ありますので、その中からの製品を拡大、販売するような仕組みづくり、そういうのもこれからの課題ではないかなというふうに考えておりますので、再度

執行部の考え方を聞かせていただければというふうに思います。よろしく申し上げます。

議長（中山勝三君） 町長。

（町長 谷中 聰君登壇）

町長（谷中 聰君） 3番、安田忠司議員の再質問にお答え申し上げます。

議員のおっしゃるとおりかと私も考えます。早急に、同じ意見でございますので、同じ方向を向いて努力していきたいと考えておりますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。答弁とさせていただきます。

議長（中山勝三君） 最後に、再々質問を許します。

3番、安田忠司議員。

3番（安田忠司君） 教育環境の整備ということで、安心、安全に通える学校づくりという、先ほど質問させていただいたのですが、歩道の整備です。冬の西風が吹くときにほこりが舞いますので、そのほこりが雨が降ると溶けて、ぬかるみになって低いところへたまった。たまった状態で放置をされているような場所が見受けられると。それと、雪が降ったときに、これから雪が降って、歩道に堆積して、やはりその日のうちに片づけないとシャーベット状になって凍ってしまうのです。そうすると、今度は凹凸が激しくなると、歩道も通行困難な状態になってきて、車道を歩くたびにやはり交通事故に対する危険性が増すというふうなことが考えられると思うのです。

それと、草の問題です。春から夏にかけて草が生えてきます。生い茂るとやはり歩行に関して障害が出てくるので、その内容についてもやはり対策等も必要かなと。

それから、通学の途中、困難な場所に、危険箇所があるような場所が見受けられますので、そういうのを把握した状態で危険の対策、そういうふうなものも必要なのかなと。何カ所ぐらいあるか、どういう対策をしているか、この件についてもちょっと聞かせていただければというふうに思いますので、よろしく申し上げます。

議長（中山勝三君） こちらの質問につきましては、通告に詳しくは出ておりませんので、答えられる範囲で町長にお願いをしたいと思います。

町長。

（町長 谷中 聰君登壇）

町長（谷中 聰君） それでは、安田議員の再々質問にお答え申し上げます。

詳細については、対応については産業建設部長のほうで把握はしているということなのですが、予算も関係してきますので、ちょっとこの場で回答は遠慮させていただきた

と思います。よろしくお願いいたします。

議長（中山勝三君） 以上で3番、安田忠司議員の質問を終わります。

次に、5番、大里岳史議員の質問を許します。

5番、大里岳史議員。

（5番 大里岳史君登壇）

5番（大里岳史君） ただいま議長の許可がありましたので、安心安全、衛生的な学校づくりを進めるための小中学校の体育館及び外トイレの洋式化について、通告に従い一般質問をさせていただきます。

この問題は、今私がつけていますSDGs、持続可能な開発目標は17の目標になっており、私の質問もこのSDGsに組み込まれております。八千代町にも当てはまる項目が多数あると思いますので、参考にして、生かしていただきたいと思います。

トイレ研究所が小学生対象に調査したところ、小学生5人に1人が便秘状態で、さらに2人に1人が学校で排便しないという結果が報告されております。生活習慣や食生活が多様化する中、子どもの便秘が増加しております。背景には、家庭の生活習慣や食育、または学校トイレの老朽化や洋式化であるか否か、または小学校での排便教育が浸透していない状況があると思われれます。

皆さんは、小中学校に年に何回足を運びになられますか。恐らく年に数回、いや、3回くらいだと思われれます。入学式、体育祭、卒業式ぐらいではないでしょうか。その3回の中で、体育館のトイレや外のトイレを見たり、使用したことがありますか。あるとしたら、どのような光景で、どのような状態でしたか。地元の議員さんたちならわかると思いますが、小中学校別で説明いたします。私の母校、下結城小学校は、体育館外トイレとグラウンドのトイレがあり、外トイレは洋式になっていますが、外のドアがついていないため、中が丸見えです。中結城小学校は、体育館外トイレとグラウンドトイレで、体育館の外トイレはドアが腐食しておりました。川西小学校は、体育館外トイレのみ。安静小学校も体育館外トイレのみです。西豊田小学校は、体育館外トイレとグラウンドにトイレがあり、体育館外トイレは水漏れや内装ペンキがはがれている状態でありました。八千代一中は、体育館の中にトイレがあり、グラウンドのトイレはドアが壊れている状態で、ゴムでとめてありました。八千代東中は、体育館の中にトイレがあり、グラウンドのトイレもあり、東中は建てたばかりなので、洋式できれいでありました。どの学校も、きれいに整理整頓、清掃してありましたが、しかしドアの老朽化や水漏れ、

薄暗い電気、いろいろありますが、一番ひどいのは悪臭でした。体育館の外のトイレは、体育の時間や部活動の生徒が毎日のように使用いたします。学校年間行事の体育祭や文化祭、陸上記録会などで多くの父兄や関係者が来校し、その利用率が上がることから、改善を提案いたします。

私は、一般質問をつくる時、必ず足を運び、見て、聞いて、体験してつくっております。この質問は、生徒はもちろんのこと、父兄さん方が願っている問題でもあります。今の八千代町の小中学校は、安全安心の町と呼ぶにふさわしい状況でありましようか、お尋ねをいたします。

再質問はいたしませんので、明確な答弁をお願いし、私の質問を終わります。

議長（中山勝三君） 教育長。

（教育長 赤松 治君登壇）

教育長（赤松 治君） 議席番号5番、大里岳史議員の通告による一般質問にお答えします。

小中学校のトイレの洋式化についてのご質問でございますが、議員さんご指摘のとおり、校舎外のトイレ、いわゆる屋外のトイレにつきましては、町内小中学校7校のうち5校、西豊田小学校、中結城小学校、下結城小学校、八千代一中、そして東中の5校、グラウンドに屋外のトイレが設置されている状況です。また、この5校の屋外トイレの洋式化の状況についてですが、下結城小学校と東中学校は既に、議員からお話がありましたように、洋式となっております。中結城小学校では一部が洋式となっております。残り2校、西豊田小学校と八千代一中、これは和式のままであります。

次に、体育館のトイレですが、これは7校全てに設置されております。小学校5校全てと八千代一中、これはまだ和式のままとなっていますが、中学校は洋式となっております。また、一部のトイレにおける状況については、ドアや内装の塗装のはがれ、それから老朽化も見られるということは私どもも把握をしております。

現在は、校舎内のトイレの洋式化を順次進めております。小学校3校の一部のトイレ改修がまだ終わっていない状況でありますので、そちらをまず優先的に進めております。トイレの洋式化につきましては、教育環境整備の課題の一つと捉えております。児童生徒の教育環境改善、これを図るため、校舎外、体育館のトイレにつきましても順次計画的に洋式化を進めてまいりたいというふうに考えております。

また、議員ご指摘のように、時代の変化、食生活や生活習慣、こういったものに対応

すべく、教育環境も改善していく必要があるというふうと考えております。学びの保障、指導力の向上に併せて、今までエアコンの整備、耐震補強、ブロック塀、それからICT教育等々環境整備をさせていただいております。トイレの洋式化につきましても、そういうものと同じように順次計画的に進めてまいりたいと考えておりますので、議員各位のご理解、ご協力をお願い申し上げまして、答弁とさせていただきます。

議長（中山勝三君） 町長。

（町長 谷中 聰君登壇）

町長（谷中 聰君） 議席番号5番、大里岳史議員の通告による一般質問にお答え申し上げます。

小中学校の校舎外、体育館におけるトイレの洋式化につきましては、先ほど教育長が答弁したとおりでございます。今後も、児童生徒が安心して学校生活に取り組み、意欲的に勉強、そして運動に集中できるよう、早急な整備に努めてまいりたいと考えております。

また、学校給食センターも新しくなりましたので、併せて食育のほうも強く進めたいと考えております。

議員の皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます、答弁とさせていただきます。

議長（中山勝三君） 以上で5番、大里岳史議員の質問を終わります。

本日の一般質問はこれにて終了いたします。

議長（中山勝三君） 次回は、あす午前9時から本会議を開き、引き続き一般質問を行います。

本日はこれにて散会といたします。

（午前11時15分）